

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年1月

（1）奄美群島花き交流会で他産地の栽培事例等の情報を収集

1月11日、徳之島で開催された奄美群島花き交流会に、奄美・徳之島・沖永良部の生産者、関係機関27人が参加し、農業開発総合センター徳之島支場、天城町農業センター、生産者の取組を学びました。それぞれの産地における品種、自家育苗方法、病害虫対策、及び土壌還元消毒等について意見交換を行いました。来年度は、与論島で開催する予定であり、生産者の意識や栽培技術向上を支援していきます。



（2）花き若手生産者が他産地生産者と活発に交流

1月18～19日、沖永良部の花き若手生産者が鹿屋市花き振興会（以下は鹿屋と記載）の花き生産者と和泊町の現地や室内で交流を図りました。室内では、沖永良部のスプレーギクのスマートフラワー、鹿屋の農業の概況やスプレーギク生産等の取組について、活発な意見交換が行われました。また、その夜は、沖永良部の出荷団体を超えた花き若手生産者も参加し有意義な交流会となりました。2月には、枕崎の花き生産者も沖永良部へ来島し、さらに産地間の交流を深めていきます。



（3）かごしまブランド沖永良部ばれいしょの生産状況と出荷計画

令和5年産のJAあまみ和泊・知名のばれいしょは、1月15日から荷受けを開始し、633ha（前年比108%）の作付で、4月末までに9,573t（前年比146%）の出荷を計画しています。生育状況は、10～11月の植付初期の少雨により生育が遅れが見られましたが、その後、気温が高く降雨にも恵まれたことから生育は回復し、前年と比較して、いもの個数は少ないが肥大は順調に進んでいます。今後も継続して安定生産に向けて、関係機関と連携を図っていきます。

